

## 利用者からのメッセージ

◎ 二日間ありがとうございました。キャンプファイヤーと火おこし体験では、みんなと友情を深めることができました。また、協力しないとうまくできないことがわかり、協力する大切さが良くわかりました。野外炊飯では、たくさんの食材を使ってカレーライスを作りましたが、火かげんを見ることなどでとても疲れました。野外炊飯をしたことで、お母さんが食事を作る大変さを知ることができました。



ウォークラリーでは道に迷ったり大変でしたが楽しかったです。キーホルダー作りもしましたが、他にも多くのことを学びたいので1週間ぐらい泊まってもいいと思いました。二日間多くの体験をさせていただきありがとうございました。【九十九里小学校5年生 男子より】

◎ 皆様いかがお過ごしでしょうか。新入生4人を迎え、27人になった男子部高等科1年生は、誰も休むことなく元気にとても良いスタートをきりました。

さて、先日は本当にお世話になりました。青年の家で学んだことは、今の生活でとても役に立っています。ウォークラリーや野外炊事などを皆で盛りあげて成し遂げることで「友と協力する大切さ」を再認識することができました。普段から自治寮で生活していますが、クラス単位で宿泊することは年に一度のことですし、学園の生活とは異なる環境の中で生活するという経験は、僕たちにとって、とても大切なものになりました。この体験を今までの学園生活の経験に加え、クラスの成長につなげていけたらと思っています。本当にありがとうございました。

また機会があれば東金青年の家に足を運びたいと思っています。【自由学園男子部高等科 1年生代表より】

## 青年の家の利用について

25年度延べ利用人数は、42,456名、利用団体数930団体、うち宿泊延べ利用人数は10,627名、宿泊団体数は173団体でした。24年度と比較すると、延べ利用人数は2,007名減、前年度比95.5%、利用団体は23団体増、前年度比102.5%、宿泊人数は1,600名減、前年度比86.9%、宿泊団体数は25団体減、前年度比87.3%でした。利用人数の減は、今年の2月の雪により、利用団体のキャンセルの他に主催事業「少年少女ミニバス大会」の中止によるものです。この事業が実施されていれば、延べ利用人数は46,000名を超えたものと思われ残念でした。

宿泊利用はここ10年来、年間200団体前後となっていますが、天候不順によりスポーツ団体のキャンセルにより、4月、6月、2月の利用が少なかったことが前年より少なかったものと判断しております。

25年度は、県立東金高校と県立東金農業大学校が耐震工事のために利用されました。その関係から高校の利用が153校と全利用団体の16.5%と多いのが特長です。学校利用では小中学校、大学等もありますが、小中学校で

地元東金市、近隣の山武市、九十九里町の学校利用が極端に少ないことは残念なことです。

幼児と親のサークルが定期的に利用しているのも、おかしな特長ですね。

青年から縁遠くなり、幼児や小中学生の利用に頼っている青年の家、生涯学習の時代とはいえ妙な感じがしますが、今年度は44,000名の利用者を目指します。



# かがやけ東青

2014(平成26)年

7月号

## 竹の道が出来ました!



地主さんのご理解を得て、青年の家に隣接する里山(竹山)を、中学生の職場体験、大学生の環境体験学習に採り入れ、職員共々で整備しました。足の踏み場もなかった竹山が写真のようにきれいになり、青年の家の主催事業の場としても活用できるようになりました。中学生、大学生、職員も里山美化の大切さを体感しました。

## 「おもてなし」が青年の家の心

所長 馬場孝之

「月日は百代の過客にして行きかう年も又旅人也」は松尾芭蕉の「奥の細道」の有名な一文ですが、年月の流れは留まることなく旅人のように過ぎて行きます。当社が指定管理を受けて4年目に入りました。青少年の教育・学習の場として役立つように職員一同邁進してまいりましたが、今年度もその歩みを留めることなく進んでまいりたいと心しております。

昨年度は、快適な施設環境を整えることに力を入れ、宿泊室の和式トイレを全て水洗洗浄付き便座の洋式に替え、懸案の課題を解消いたしました。また、身体障害者の方のみならずご利用の皆様への所内移動の便を図るために、階段部分に木製のスロープを12ヶ所に設置いたしました。野外炊飯場の机、椅子の交換、柱の塗装などを行った他、所内の美化に努めました。弓道練習場も全面改修をいたしました。エコ環境対策として通路等の蛍光灯をLEDに交換もしています。不審者対策として防犯カメラの設置も行いました。快適に青年の家をご利用いただけるように今年度も引き続き努力してまいります。

主催事業が多いのが東金青年の家の特色ですが、今年度も40事業・65回の実施を計画し、すでに事業を進めております。伝統の「通学合宿」、好評の「少年キャンプ」、「石窯料理のつどい」を中心に、新たに「中学生・高校生の部活動生徒のための通学合宿」、青年対象の「ふれあいの集い」、学校の先生を対象とした「野外活動指導研修」を計画しました。子ども会の研修、地元の学校等との共催・連携についても継続してまいります。

昨年度は、延べ42,456名、930団体にご利用されました。一昨年度と比べると利用状況は下がりました。(詳細は3ページ「利用について」をお読みください)

喜ばしいことに、ご利用の皆様から、施設がきれいになったという声が多く聞こえるようになりました。また、職員が親切・丁寧で、感じが良いという声が多いことです。今、まさに「おもてなし」の風が吹いていますが、「おもてなし」は青年の家の心をモットーに一層心がけてまいりたいものです。